

## 2. 経緯及び調査成果

### (1) 調査及び史跡指定の経緯

平成7年度に対象地北側を通る市道(御垣野隈野線)の拡幅が、また平成17年度には県道観世音寺二日市線が新設され、対象地の一部は分筆され道路となった。これらは事前に緊急発掘調査を実施し、調査後は遺跡を破壊せず埋戻し保存を行った。残りの部分については、西鉄の開発計画に伴い平成17年度から緊急発掘調査が始まった。大宰府条坊区画が明確に検出されるなど新発見も多く得られていく中、条坊区画に沿って政庁域に匹敵するような巨大な掘立柱建物2棟が並んでいることが確認された。このため、平成20年度から遺構保存のあり方について地権者西鉄と協議が始まった。この中で、西鉄の協力を得ることができ、本遺跡の処遇が決まるまで主だった遺構を当面保存することで合意した。

このころから市では類例調査を本格化させたが、似た事例はほとんどなく、遺跡の性格についても研究者間で意見はまとまらなかった。そうしたなか、古代の高級食器として知られる佐波理等が複数確認され、また大宰府に出仕した「仕丁」に関わる木簡など、遺跡の性格をうかがうような出土品が相次いだ。さらには条坊研究の進展も相まって、この遺跡を古代の客館跡と推定する材料がそろったのである。

平成23年はじめ、古代の客館跡と推定されることを西鉄に伝え、文化庁・福岡県とも遺跡保存にむけた検討がはじまった。

また、同年7月から約半年かけて市と西鉄とで本格的な協議を行っている。外交施設の発見は大宰府研究のみならず日本史・東アジア史でも重要な意味をもつ。このため、客館発見の公表と遺跡の保存とは表裏一体であることを市も西鉄も理解しており、遺跡の評価、公表の影響、遺跡保存と活用のあり方、公有化など多岐にわたって協議を行い、互いに納得できる形となるよう模索を続けた。これにより国史跡指定に向けた協議のテーブルにつくことを平成23年12月に合意した。

そこで同12月上旬には推定客館跡として報道発表し、24日には現地説明会を開催した。この日は天気が悪くこの冬一番の寒さの中だったが、350人以上の方が現地来訪された。年が明け平成24年には、神本美恵子文部科学大臣政務官(当時)の現地視察(2月)、福岡県議会文化議員連盟23名の視察(1月)があり、また文化庁記念物課文化財調査官の視察も相次いだ。そして3月末までに第285次調査区を埋戻し、調査を終了した。



対象地全景  
168次調査 北西から撮影



調査前の史跡地の状況  
(平成7年6月)



北棟西側  
267次調査 南東から撮影



南棟  
257次調査 北から撮影

平成 24～25 年度にかけて、西鉄と史跡指定の協議を行い、またその後の活用についての意見交換を行った。また県道・市道についても那珂県土事務所・市建設課など関係部署とも調整を行い、これにより平成 26 年 1 月初めまでにすべての地権者から史跡指定の承諾を受けた。そして市から意見具申を行い、平成 26 年 10 月 6 日、特別史跡大宰府跡に追加指定された。

指定地は太宰府市朱雀 3 丁目 305-1 の一部、305-2、305-3 の一部、305-4、305-5、305-6、305-7 の一部、305-8 の一部、1044 の、16,185.99 平米である。このうち県道・市道・西鉄保線事務所を除く指定地 10,623.03 平米と、東隣接地 1,560.05 平米、合計 12,183.08 平米が整備を行う対象となる。

指定地には、県道・市道・用悪水路（以上、公有地）、そして西鉄所有地が含まれる。指定時には、西鉄所有地の一部は西鉄の月極駐車場および鉄道保線事務所として利用されていたが、鉄道保線事務所を除く西鉄所有地は、平成 26 年度から公有化を進めている。



高級食器 新羅製品  
(佐波理・新羅土器)

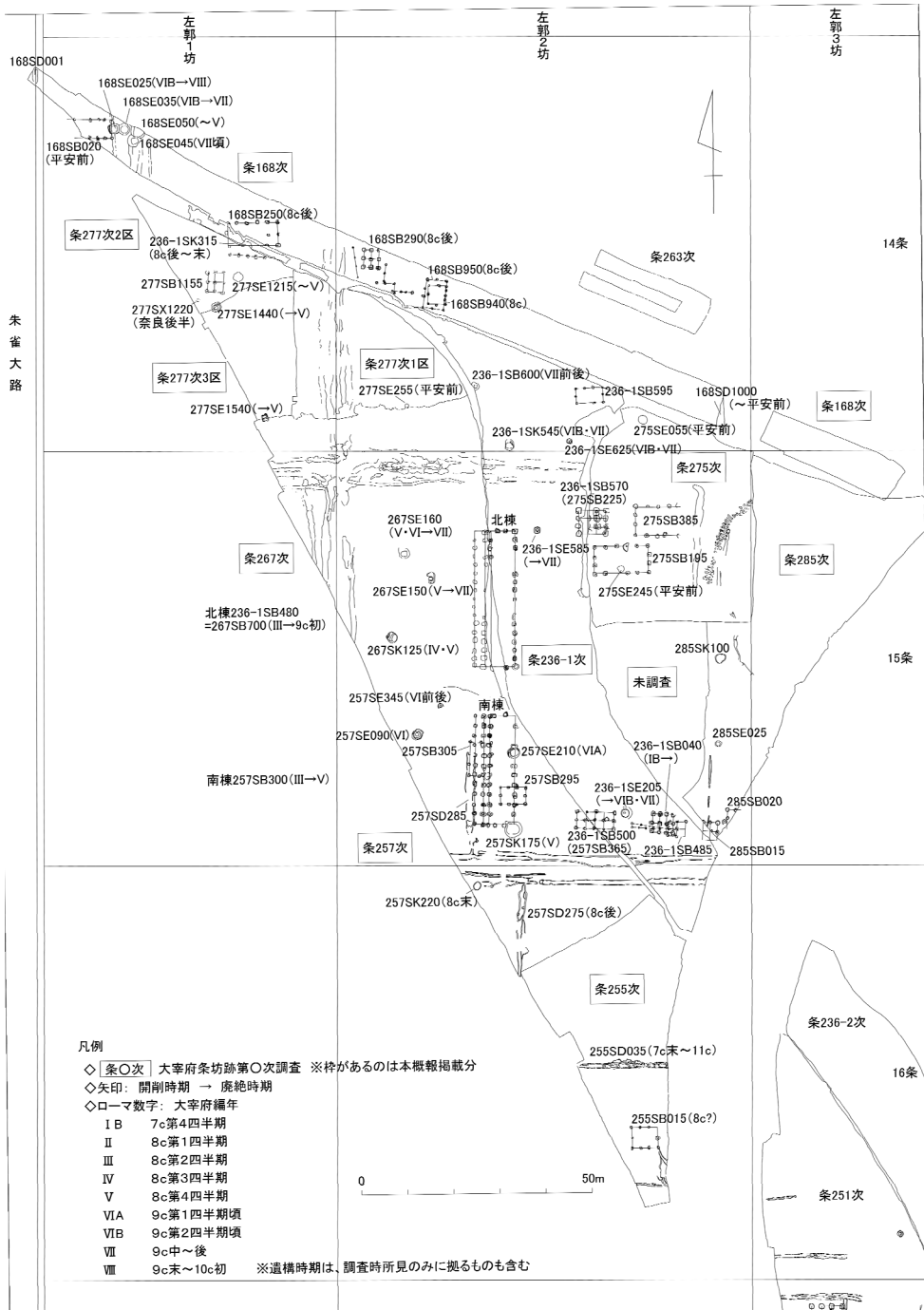


南棟現地説明会  
(平成 18 年 11 月 25 日)



推定客館跡としての説明会  
(平成 23 年 12 月 24 日)

大宰府条坊跡第 168 次調査	(平成 7 年 6 月～平成 8 年 1 月)
同 第 236 次調査	(平成 16 年 4 月～平成 17 年 6 月)
同 第 251 次調査	(平成 17 年 6 月～11 月)
同 第 255 次調査	(平成 17 年 12 月～平成 18 年 3 月)
同 第 257 次調査	(平成 18 年 3 月～平成 19 年 1 月)
同 第 267 次調査	(平成 19 年 2 月～平成 20 年 9 月)
同 第 275 次調査	(平成 20 年 8 月～平成 21 年 6 月)
同 第 277 次調査	(平成 20 年 9 月～平成 24 年 3 月)
同 第 285 次調査	(平成 22 年 10 月～平成 24 年 3 月)



遺構全体図